

- ・対象地域：松前町江良地域
- ・地域人口：1,623人（654世帯）
- ・漁港：江良漁港（3）、大島漁港（4）
原口漁港（1）、清部漁港（1）
- ・漁業就業者：140人（H17港勢調査）

松前江良地域マリンビジョン

～うみ業で活気あふれるまちづくり～

平成18年3月策定

- 拠点漁港
- 都市漁村交流拠点型
- 増養殖支援拠点型

拠点漁港



第3種江良漁港



陸揚げ風景

地域の資源等



お城と桜



渡島大島

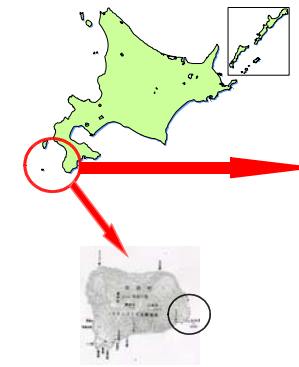
小島



漁業体験



加工体験



第1種原口漁港

第3種江良漁港

第4種大島漁港

第1種清部漁港

現状と課題

- | | |
|----|--|
| 現状 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 荒天時に弱い漁港 ○ 水産業の低迷（漁価安・漁獲量の減少） ○ 通過型観光 ○ 労働人口の流出と少子高齢化 |
| 課題 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 漁家経営の安定 ○ 後継者育成 ○ 水産業と観光産業、教育機関等との連携による地域活性化 ○ 漁港の整備 ○ 漁業就労環境の改善 |

地域の目指す姿

- 松前城・築城400年の歴史と文化、気候風土を活かしたまちづくり
- ビジョンの特徴
- 基幹産業である漁業を基軸としつつ、漁業のもつ多面的な魅力を再発見し、日常の漁村風景に溶け込む時間を創出、観光産業と教育の結びついたまちづくりを目指す。
- 一水産業と観光、教育の連携による町の活性化一
- ① 漁港・漁場整備
 - ・ 漁労の安全確保
 - ・ 静穏域確保
 - ・ 親水機能整備
 - ・ 観光資源整備
 - ② 漁村振興
 - ・ 漁家経営安定
 - ・ 持続的漁業生産
 - ・ 他産業との連携で付加価値
 - ・ 後継者育成（I・J・Uターン）
 - ・ 雇用創出
 - ・ ブランド化
 - ③ 観光振興
 - ・ グルメ観光の充実
 - ・ 観光資源付加
 - ・ 体験型観光の推進で滞在型観光へ
 - ・ 地産地消の推進
 - ④ 教育振興
 - ・ 体験学習の拠点充実
 - ・ 海の町を意識したふるさと学習支援



地域マリンビジョン協議会

- 《メンバー》
- ・ 漁業関係者
 - ・ 観光関係者
 - ・ 旅館組合
 - ・ 商工関係者
 - ・ 教育関係者
 - ・ 行政関係者
- 《ワーキンググループ》
- ・ ソフト部会 [漁港の活用を検討する部会]
 - ・ ハード部会 [漁港の整備と管理に関する部会]
 - ・ 蓄養施設整備検討会

地域資源（特徴）

- 北海道文化の発祥地
 - スルメイカ・ヤリイカ・クロマグロ
 - 桜の里
- 【主な地域資源等】
- ・ 史跡福山（松前）城 [北海道遺産]（平成18年・築城400年）
 - ・ 離島渡島大島、小島
 - ・ 松前漬け・スルメの産地
 - ・ 松前産アワビ等の「松前ブランド」
 - ・ サザエの北限（離島小島）
 - ・ 約250種、1万本の桜
 - ・ 町営牧場（ガンビ袋）
 - ・ 江良杵振り舞（郷土芸能）
 - ・ 歴史を活かす町並み商店街
 - ・ 松前藩屋敷

漁港の将来像

- ① 都市漁村交流拠点機能（ブルーツーリズムの推進）
 - 親水護岸、親水性海面
 - 直販施設、交流施設
- ② 増養殖支援拠点機能
 - 蓄養施設
 - 消波及び藻場造成施設（潜堤）

ビジョン実現のための主な取組み

- 蓄養施設整備と事業化（地産地消を含めた流通の安定と高付加価値化の推進）
- ウニ・アワビ増養殖施設（消波と港内藻場造成を兼ねた潜堤等施設）の事業化
- 漁港のふれあい機能と文化・観光施設、そして松前産海鮮・新鮮食材等地域資源総動員型の観光振興への取組（既存観光コースに漁業体験、加工体験、郷土芸能体験、グルメツアー等を取り入れた滞在型への転換の推進）
- 自然保護の取組と環境学習の推進（ふるさとシンボル・渡島大島エコツアー等の実施）
- 松前ブランドの確立のための漁獲物の高度衛生処理等の推進とCAS凍結等を活用した商品の開発（松前産クロマグロの高付加価値化の取組等）
- 新聞、テレビ、インターネット等メディアを活用した情報発信